

「（仮称）子供・若者体験活動施設 区部基本計画（案）」に対する意見募集の結果について

意見募集の概要

- (1) 募集期間
令和8年1月15日（木曜日）から令和8年2月13日（金曜日）まで
- (2) 提出方法
WEBフォーム又は郵送
- (3) 意見の総数
合計 92件（回答者数 75人）
- (4) 内訳

【回答者属性】

属性	人数
小学生	0
中学生	1
高校生	0
大学生/大学院生/ 短期大学生/専門学校生	4
保護者	22
学校関係者	4
NPO関係者	8
その他	36

【回答者年齢】

年齢	人数
20歳未満	2
20代	5
30代	9
40代	15
50代	13
60代	19
70代以上	12

【項目ごとの件数】

項目	件数
1.（仮称）子供・若者体験活動施設事業について （2～4ページ）	31
2.区部施設について（5～12ページ）	37
3.実現手法（13～17ページ）	3
4.今後のスケジュール等（18ページ）	1
5.全体に係る事項	20

※ 複数項目について意見を回答している場合があるため、
回答者数（75人）とは一致しません。

主な意見について

主な意見要旨と東京都教育委員会の考え方は以下のとおりです。
なお、同様の趣旨と考えられるご意見については、内容を集約し、掲載しております。

主な意見要旨

東京都教育委員会の考え方

1. (仮称) 子供・若者体験活動施設事業 (2～4ページ) について

1-①

近年、発達障害、不登校の子供・若者が増加しているが、医療が進歩しても、非認知能力が低いと現状維持にとどまり、克服することが難しくなると思います。
発達障害、不登校の子供・若者が、非認知能力を高める機会、特に成功体験を得る機会を新施設で提供できるとよいと思います。

1-②

偏見にとらわれない人間に育つことができるよう、子供時代から多文化・インクルーシブを理解できる文化・スポーツ活動をしてほしい。

1-③

昨今のニーズにあった良い事業だと感じた。ぜひ取り組んでいただきたい。

1-④

事業全体の方向性について賛同します。
一方で、現在の東京スポーツ文化館が果たす、「生涯学習拠点」としての価値も極めて重要であると考えます。
本施設を単に「子供・若者専用」へと機能を縮小させるのではなく、多様な経験を持つ社会人や競技者が集う広範な利用者構成を維持することを強く要望します。

1-⑤

体験した、その先が不明瞭なように思え、気になりました。
対象として想定されている方々が体験を終えてから、社会資源としてあるものを社会の一員としていかに使いこなしていくのか道筋が分からなかった。
社会資源をみなで共有し、インクルージョンを達成する明確な視点を補うべきではないでしょうか。

本施設のコンセプトや事業目的の実現のため、引き続き検討を進めてまいります。
いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。

本施設のコンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」を踏まえ、共生社会の実現に向け、多様な人々の交流を生む活動を通じて、社会における多様性への理解を促進していきます。

本施設のコンセプトや事業目的の実現のため、引き続き検討を進めてまいります。
いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。

主な意見要旨

東京都教育委員会の考え方

1-⑥	以下の内容を実現してほしい。 ・不登校等で生活リズムが整いにくい子供も利用しやすいように、ルールを定めてほしい。 ・不登校・外国ルーツ・障害等を対象としたプログラムを用意しつつも、プログラムの参加条件を子供・若者の背景や属性ではなく、「関心・テーマ」ベースで設定してほしい。「不登校コース」、「外国籍コース」といったラベリング、背景で区切らない設計としてほしい。 ・利用相談に応じるスタッフを配置し、一人ひとりの状況を踏まえながらプログラム提案ができる体制を整えてほしい。 また、日本語支援・特別支援等の背景別の専門支援を行う場合も、子供・若者に見えてきた関心を他のプログラムや活動にスムーズに移行・併用できるような「橋渡し」を役割としてほしい。	本計画 5 ページに記載の「子供・若者に多様な体験活動を提供する」機能の実現に向けた具体的なプログラム内容や運営体制については、引き続き検討を進めてまいります。
1-⑦	共働きが多い中、放課後 1 人で子供に行かせるには立地的に厳しく、利用できる地域も限られています。 共働き家庭の子供等も体験活動に参加できるような仕組みづくりをしてもらいたい。	いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。
1-⑧	アーチェリーは年齢や体格、障害の有無などに関係なく、同じ基本ルールの下でともに楽しめるスポーツです。 また、その競技特性から、他者への深い理解を育む場とみることもできます。 多様性へ理解の促進や生涯スポーツとしてのアーチェリーの振興のため、新施設におけるアーチェリー場の整備及びアーチェリー公開講座の存続を希望します。	
1-⑨	夜間照明を有した、近距離から70mまで射ることのできる貸切可能なアーチェリーの練習場は、都内でも非常に数が少ないです。 アーチェリーは、距離条件や安全性の確保の制約があり、一般的な多目的運動施設では代替ができません。 「ここにしかない機能」、「ここだからある機能」として、新施設におけるアーチェリー場の整備を希望します。	本施設のコンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」を踏まえ、具体的な施設の構成やプログラムの内容については、引き続き検討を進めてまいります。
1-⑩	高い集中力を養うアーチェリーは自己肯定感の育成に親和性が高いです。 特に、運動神経や体力に自信がない青少年であっても、道具を正しく扱い、自己を律することで成果が得られる競技特性は、多様な子供たちの可能性を広げる体験として最適です。アーチェリーを中核的な体験プログラムとして位置づけることを望みます。	

主な意見要旨

東京都教育委員会の考え方

1-⑪	遠方での活動は、準備や病気の際の対応等、保護者・学校の負担が大きいため、林間学校をやめて、学校施設や教育センター等で宿泊、炊事体験をしてほしい。 学校施設や教育センター等での宿泊、炊事体験でいいのではと思います。	ご意見は、関係部署と共有させていただきます。
1-⑫	施設への意見ではないが、ボール遊びができる場所が少ないため、あちこちの公園にネットを張り、ボールが飛び出さないような場所を設けてほしい。	
1-⑬	日曜、祝日、年末年始に障害児を預かってもらえる施設が欲しい。送迎ありが希望です。	
1-⑭	駐車場は外部団体が管理しているが、夢の島は交通のアクセスがあまり良くない場所なので、駐車場料金を下げてほしいです。	
1-⑮	ターゲットに日本語を母国語としない子供たちとありますが、駐在者等に向けてはアメリカンクラブなど潤沢な施設もあるため、まずは日本人の子供を主に検討いただきたいと思います。	ご意見として承ります。
1-⑯	「子供」や「子育て」には反対。老朽化更新を機に、現在の利用者を追い出す施策には断固反対する。 子供の数より、成年の数は多い。子供は都内で大人が用意した「体験もどき」ではなく、地方に行って「体験」すべきだ。	
1-⑰	私の子供は区の制度で中学時代に留学に行き、高校生になり、また中期留学に行きました。中学時代の留学経験により、沢山のことを吸収しようとしています。 子供は、経験が成長にすごく影響していると感じています。	

2.区部施設（5～12ページ）について

2-①	以下の内容を実現してほしい。 ・地理的・経済的格差を埋める多様な方法を用意してほしい。 ・屋外スペースは、日陰・給水・ベンチなど温暖化を踏まえた環境配慮を整えた自由に使えるオープンな場としてほしい。 ・災害時の中長期避難拠点・要配慮者の拠点としての機能も計画に明記してほしい。 ・飲食物の持込ができる無料の休憩スペースを設けてほしい。 ・家族で一緒に入れるトイレや更衣室等を十分に整備してほしい。	本施設のコンセプトや事業目的を踏まえ、具体的な施設の構成や取組等については、引き続き検討を進めてまいります。
2-②	偶然に見かけたスポーツや文化活動が新たな体験活動に繋がると考えます。そのため、通りすがりでも活動している様子が見え、興味の無かった活動も目にする事ができる「偶然の出会い・発見ができる施設」となるといいのではないのでしょうか。	
2-③	今ある施設を子供たちの体験活動の充実に充てることはとても有意義で、率直に素敵な取組みだと思いました。 その上で、安全かつ有意義に体験するために施設環境を整えることは不可欠だと思いますが、あまりに大きい改修にすると改修している間利用できなくなってしまうため、改修・改築する規模感は調整するべきだと思います。	現在の建物は老朽化が進んでおり、利用者の安全確保等の観点から改築・改修が必要と考えています。
2-④	「日本語を母語としない子供・若者など、特性に合わせた学習支援」、「不登校の子供・若者などを対象とした、宿泊・調理体験」といった取組みが盛り込まれていることに安堵しました。 日本語を母語としない子供・若者に、「日本社会の成員として期待されている」実感を持ってもらえるようなプログラムであって欲しいと思います。そのルーツを活かして日本を引っ張る人材になる等、支援をしていくことが地域の活性化に繋がっていくと考えます。 不登校については、学校に「行けない」ではなく「行かない」選択をした子供たちであるという認識のもと、そのための支援をお願いしたいと思います。	基本計画5ページに記載の「子供・若者に多様な体験活動を提供する」機能の実現に向けて、多様な子供・若者が自らのポテンシャルに気づききっかけや社会参画への意識を涵養する機会を提供できるよう、具体的なプログラム内容については、引き続き検討を進めてまいります。

主な意見要旨

東京都教育委員会の考え方

2-⑤	アーチェリー場の整備を希望します。	本施設のコンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」を踏まえ、具体的な施設の構成やプログラムの内容については、引き続き検討を進めてまいります。
2-⑥	夢の島は東京2020オリンピック大会のアーチェリー会場（都立夢の島アーチェリー場）があり、アーチェリーの聖地として知られています。 一方、都立夢の島アーチェリー場は正規の試合に対応できる射場であり、練習場としての使用は、費用面などの観点から難しいです。 日本におけるアーチェリー競技の裾野拡大や競技力向上のため、新施設におけるアーチェリー場の整備を希望します。	
2-⑦	アーチェリー場は、他の競技の施設より維持管理費は少ないと思われます。 さらに、競技場自体が段差のない平らな長方形であり、共用で他のスポーツが使用することも可能であり、運用によっては高い稼働率が見込まれます。 イベント広場としても使用できるアーチェリー場を望みます。	
2-⑧	設置エリアの選定について、都内の市区それぞれの商業施設の数、商業施設からの収益、交通の便などをで選定してほしい。 設置できる土地の有無も選定条件に含まれていると思うが、都内市区それぞれに目玉となるものがない場所に設置できればいいと思う。	
2-⑨	現在の場所だと気軽に行ける住民は限られていると思います。 採算性、利用者の意見、行政側の都合等、将来予測にはA Iを活用して、あらゆる角度から見直し・検討し、人口減も考慮した総合的な判断をしてほしい。	ご意見として承ります。
2-⑩	夢の島は交通も含め、不便です。 同様の活動施設を各区に設ける、またはスペースを借りて実施する等、分散させた形で実現出来ないでしょうか。	
2-⑪	身近な動物、植物とのふれあいができると良い。馬や山羊などの生活に関わる動物の飼育作業含めた触れ合いが出来る場所が、わざわざ出かけなくても身近にあると良いと思う。	
2-⑫	現在、当該施設を利用している人に意見を募った上で計画を策定すべきだと思う。	

3.実現手法（13～17ページ）について

3-①	現在の設備を進化させる設備として、以下の設備を希望します。 【希望する設備】 調理実習室、コンサートホール、駐車場、スーパー銭湯・託児所・シェアオフィスの誘致 また、屋外施設に消防車両やキッチンカー、障害者車両などの車両が進入できるよう設計を配慮することを希望します。	本施設のコンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」を踏まえ、具体的な施設の構成については、引き続き検討を進めてまいります。 なお、基本計画7ページの通り、料理ができるスペースや発表・交流ができるスペースの整備を想定しています。
3-②	資金が苦しいが良質な取組みをしているNPO、小規模団体、スタートアップ等を優遇し、実績や財務規模だけで不利にならないような仕組みを設けてほしい。	ご意見として承ります。
3-③	NPOに委託とは無責任な丸投げであると思う。 また、設備の老朽化に伴う更新には賛成するが、いきなり「子供」を持ち出すのは横暴で、現在の利用者やスポーツ関係者に影響がでないようにすべきだと思う。	

4.今後のスケジュール等（18ページ）について

4-①	現施設のアーチェリー場は、専用の射場を持たない高校・大学の練習や大学間の交流試合、個人練習の場所等に使用されています。 そのため、アーチェリー場の縮小・廃止は学生の練習機会の大幅な減少と他施設への過度な集中を招くと思います。 継続的な活動環境の確保のため、新施設におけるアーチェリー場の整備を希望します。	本施設のコンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」を踏まえ、具体的な施設の構成については、引き続き検討を進めてまいります。
-----	---	---

5.全体に係る事項について

5-①	本計画案を拝見し、「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」という基本理念や、誰一人取り残さない支援を目指す方向性に強く共感いたしました。 「体験活動」は非常に意義深いものだが、体験そのもの以上に、その後の意味付け・振り返り・次の行動への接続が、子供・若者の成長に大きく影響すると感じています。 そのため、新施設では、体験活動に併せて、 ・小人数または個別での振り返り・対話の機会 ・年齢や発達段階に応じたキャリア・進路的視点を含む設計 ・不登校や自己肯定感の低い子供・若者でも安心して参加できる関係性づくり といった要素が、より意識的に組み込まれることを期待しています。 加えて、学校・行政・民間・NPOがそれぞれの強みを持ち寄ることで、子供・若者への支援はより持続的で実効性の高いものになると考えている。こうした外部団体との連携が単発的なものにとどまらず、運営やプログラム改善に生かされていることを期待しています。	基本計画4ページに記載のとおり、本人が自らと向き合う機会を生み出すとともに、参画する団体、行政等と一緒に共生社会や子供・若者の社会参画の実現を図る仕組みについて、引き続き検討を進めてまいります。 いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。
5-②	すでに各地区にある公民館や児童館などの公共施設の利活用を進めるほうが、子供・若者に対し、地域で密着して支援できるのでないでしょうか。無駄のように感じます。	本施設は、多様な子供・若者が増加し、社会的な課題が複雑化している状況において、「子供・若者が自ら学び考えられる力を育成する機会」や「多様な人々の交流を生む活動を通じた社会における多様性への理解の促進を実現すること」を目的として、体験活動を事業の中核に位置付けております。
5-③	子供たちや若者たちに体験や遊びの場を増やすという事業はとても良いと思うし、そういった場所が沢山増えるといいと思います。 大きい施設でなくていいので、子供たちの居場所として行ってみたい、やってみたいと思える場所。気軽に行け、色々な年代の方と交流出来たり、誰かの役に立ったり、楽しいと思えたり、色々な経験をできる場所を各自治体が作ってほしいです。	ご意見として承ります。 なお、東京都教育委員会では、多摩地域ユース・プラザにおいて、自然に触れられる様々な体験プログラム等を提供し、子供・若者の体験や交流の機会を提供しております。
5-④	とても良いと思います。東京都に引っ越してきて良かったです。	本施設のコンセプトや事業目的の実現のため、引き続き検討を進めてまいります。

主な意見要旨

東京都教育委員会の考え方

5-⑤	隣接する新江東清掃工場と連携することで職場体験等の実践的な体験活動が可能だと考えます。 施設整備の当たっても、熱供給だけではなく、電力についても供給を受ける等、新江東清掃工場と最大限連携し、効率的かつ効果的な工事・運営を行ってほしいと考えます。	基本計画３ページに記載のとおり、周辺施設との連携については、それぞれの施設の状況等も含め、引き続き、検討・調整してまいります。
5-⑥	事業者の選定については都民にプロセスとその選定理由が明確にしっかりと理解できる形とすることを求めます。都民に疑念を持たれないよう、プロセスと判断の透明性を求めます。	法令等に基づき、適切な事業者選定を行ってまいります。
5-⑦	定型発達のお子さんの子育て支援ばかりでなく、障害児を育てる、障害者をささえる家族の者のことを含んだ制度の改革が必要だと思います。	ご意見は、関係部署と共有させていただきます。
5-⑧	減少していく子供や若者向け施設を高い予算を掛けて作るより、老人から子供まで全世代で楽しめるスポーツ施設への改装等全世代に対応した施設の方が良いと思います。目先の利益と一部の声の大きい方の意見に囚われない全世代に対応した判断を望みます。	
5-⑨	中途半端なインクルーシブはやめてほしい。やるならやり切って欲しいです。	
5-⑩	検討委員は限られた分野での「有識者」で、検討委員のみならず現行利用者の声を反映させる必要があると思います。特にスポーツ施設が、数年単位で中断され利用できないことは問題です。 警察署の改築における一時移転や、学校の代替校舎確保等、継続のための知見を適用し、閉鎖期間中の代替施設と利用を確保してほしい。	ご意見として承ります。
5-⑪	工作や無線ができて楽しかったため、東京都渋谷区にあった東京都児童館を再現することを望む。	